

平成 21 年度 決算 に 係 る

定 期 監 査 調 査 書
決 算 審 査

平成 22 年 4 月

農林水産部農林総合研究所
中小家畜試験場

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	1頁
6	主な事業に関する調べ	2頁
7	決算調書（総括表）	9頁
8	事業別実施状況調べ	10頁
9	予備費の充用調べ	10頁
10	繰越関係調べ	10頁
	(1) 継続費逐次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
11	収入証紙取扱額調べ	11頁
12	収入事務処理状況調べ	11頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 寄付金	
	(6) 諸収入	
13	税外収入未済額調べ	12頁
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	12頁
15	税外収入不納欠損額調べ	12頁
16	債務負担行為の状況調べ	13頁
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	13頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(2-2) 補助金（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
	(4-2) 委託料（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
18	工事請負費調べ	15頁
18-2	工事請負費調べ（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	15頁
19	財産に関する調べ	15頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
20	財産の貸付及び使用許可調べ	19頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
21	借受不動産明細調べ	19頁

22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	20頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
23	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	21頁
24	寄附物件の受納状況調べ	21頁
25	備品の処分状況調べ	21頁
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	22頁
27	貸付金等状況調べ	22頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
28	事業別予算執行状況調べ	23頁
29	農業機械の管理状況	25頁
30	生産物（品）に関する調べ	26頁
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	27頁
○	意見、要望等	35頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

(3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課 名	係（担当）名	課 の 主 な 所 掌 事 務
中小家畜試験場	養豚研究室	(1) 畜産経営技術の改善に関すること (2) 豚の改良繁殖、管理、飼育方法、育成、肥育及び飼料に関すること (3) 豚の人工授精及び受精卵移植に関すること (4) 家畜の経済能力検定に関すること (5) その他畜産振興に関すること
	環境・養鶏研究室	(6) 鶏の改良繁殖、管理、飼育方法、育成、肥育及び飼料に関すること (7) 畜産に係る環境の改善に関すること (8) 種畜及び種卵の配布に関すること

4 職員の定員、現員調べ

（平成22年4月1日現在）

種 別 区 分	事務職員		技術職員		現業職員		計			備 考
	当 年	該 21.4.1 度 現 在	当 年	該 21.4.1 度 現 在	当 年	該 21.4.1 度 現 在	当 年	該 21.4.1 度 現 在	21.4.1 現 在	
定 員	0	0	10	10	3	3	13	13		
現 員	0	0	10	10	3	3	13	13		
過不足(Δ)	0	0	0	0	0	0	0	0		
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0		
非常勤職員	0	0	0	0	5	5	5	5		畜産技術員5名

5 役付職員の調べ

（平成22年4月1日現在）

職 名	氏 名	在 職 期 間	備 考
場 長	井田 穂積	年 月 2 0	(通算4年0月)
養豚研究室長	岡本 英夫	1 0	
環境・養鶏研究室長	河村 康雄	2 0	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>「鳥取地どりピヨ」の改良試験</p> <p>決算（見込）額 8,037千円 （財源内訳） 一般財源 7,707千円 財産収入 330千円</p> <p>○将来ビジョン I ひらく （4）食のみやこ 鳥取県</p>	<p style="text-align: center;">「鳥取地どりピヨ」の改良試験の流れ</p> <p style="text-align: center;">独立行政法人 家畜改良センター</p> <p>毎年導入 鳥取県中小家畜試験場 H16導入</p> <p>種類別能力検定試験(原種) (H22)</p> <p>原種鶏の能力検定→原種鶏の選定、情報提供</p> <p>シヤモ ♂ ロードアイランドレッド ♀</p> <p>(1) 交雑種鶏の血統固定化試験 (H16-23 第1選抜) (H24-27 第2選抜)</p> <p>原種鶏の導入 (H16年度)</p> <p>シヤモ ♂ ロードアイランドレッド ♀</p> <p>交雑種鶏 ♂</p> <p>交雑種鶏の能力検定→交雑種鶏の選定</p> <p>交雑種鶏 ♂</p> <p>H15~21年度 交雑種鶏の選定、ヒナ生産へ利用 H17~23年度 交配・選抜</p> <p>H22年度よりヒナ生産へ利用 H27年度 完成</p> <p>鳥取シャモ(仮称)</p> <p>(2) 種鶏(母鶏)の相性検定試験 (H21-22)</p> <p>交雑種鶏 白色プリマスロック</p> <p>現在の「鳥取地どりピヨ」</p> <p>現在使用中の白色プリマスロックが白色になる因子を保有、ピヨが白色化。地鶏の母種は有色であり、販売促進を阻害。</p> <p>・有色の羽色のピヨを作出 ・優れた白色プリマスロックを選定、 ⇒選定した白色プリマスロックをヒナ生産に使用。</p> <p>(3) ヒナ生産試験 (H21~)</p> <p>交雑種鶏 ♂ 白色プリマスロック ♀</p> <p>ヒナの生産、供給 (年間4,000羽)</p> <p>(独)家畜改良センター</p>	<p>○「鳥取地どりピヨ」とは シャモ、ロードアイランドレッドとの交雑種鶏（♂）と白色プリマスロックをかけ合わせたものが、肉質・味に優れたため、「鳥取地どりピヨ」として商標登録した。</p> <p>○今後解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地鶏種鶏群（雄鶏）の造成。 ・造成完了までの間、最適な父鶏の作出。 ・ピヨの羽色を本来の有色に戻す。 ・「鳥取地どりピヨ」のヒナ生産と、農家への安定的な供給。

I 「鳥取地どりピヨ」の種鶏改良に係る種鶏の能力検定試験 (H15-H21)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

鳥取県独自の地鶏種鶏群(雄系)への改良(血統固定化試験)が完成するまでの間、最適な父鶏の作出を行う。

(イ) 事業の実施状況

- ・父鶏の親鶏であるシャモ雄(2系統)とロードアイランドレッド雌(1系統)を導入して、その生産性を検定した。
- ・シャモとロードアイランドレッドを交配して生まれた交雑種である父鶏ヒナを作出して、生産性及び品質などその能力を調査中である。

イ 平成21年度実施に当たり改善等に取り組んだ点
特になし。

ウ 成果

- ・37羽の父鶏の作出を行い、鳥取地どりひなの順調な生産が行えた。
(詳細は、31試験研究調査事業別実施状況調べ参照)

エ 課題

平成22年3月末現在、導入した親鶏から2系統の交雑種を作出しており、この交雑種の実産性及び品質を比較検討することが必要である。

II 「鳥取地どりピヨ」の種鶏改良に係る交雑種鶏の血統固定化試験 (H16-27)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

「鳥取地どりピヨ」の元となる種鶏は、全て県外導入に依存しており、生産性や品質の安定性等に問題が残っているため、鳥取県独自の地鶏種鶏群(雄系)への改良を図る。

(イ) 事業の実施状況(詳細は、31試験研究調査事業別実施状況調べ参照)

- ・第4世代鶏(M4)を、血縁係数を元に人工授精し、第5世代鶏(M5)を作出した。
- ・第5世代鶏(M5)の増体、産肉能力等の生産能力、とさか等の外貌等の選抜基礎データを収集した。単冠(*1)の発現状況及び単冠因子の保有状況を確認した。

*1: 単冠とは、プロイラーで見られる大きな1枚のとさか。「鳥取地どりピヨ」は地鶏らしさを表現するため、シャモのとさかである三枚冠(小さなとさかが3列に並んだとさか)へ固定する方向。

イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・選抜のための育種価を、増体、産肉量のデータより算出した。
- ・産卵率に關与する遺伝子情報をM5世代の選抜に一部利用し、産卵率の改良スピードを上げるよう努めた。
- ・育すう期(*2)の温度管理、餌付け等の再度徹底を行った。

*2: 育すう期とは、ひよこの育成期間のこと。概ね1~4週齢くらいのこと。

ウ 成 果（詳細は、3.1 試験研究調査事業別実施状況調べ参照）

第5世代鶏は、体重も増加し、とさかについても単冠除去が進み、目標に近づいた。

エ 課 題

- ・単冠除去については、引き続き、発現個体の淘汰とあわせて遺伝子情報を利用し単冠因子保有個体を除去していく。
- ・今後の選抜手法として、従来の育種価等に加えて産卵率に關与する遺伝子情報も利用し選抜を行い、より効率的な育種を行う。
- ・第5世代では、受精率及び孵化率の低下が見られた。近交の程度の確認とあわせ、ふ卵技術等の見直しも必要である。

Ⅲ「鳥取地どりピヨ」の種鶏（母鶏）の相性検定試験（H21-H22）

ア 目的及び事業の実施状況

（ア）目的

羽色の白色化により、農家段階での販売阻害要因になっているため、ピヨの羽色を本来の有色に戻す。

（イ）事業の実施状況

- ・母鶏の白色プリマスロック（2系統）を導入して、その生産性を検定した。
- ・GSR（シャモ雄×ロードアイランドレッド雌）雄と白色プリマスロック（2系統）雌を交配し、交雑種であるピヨのヒナを作出して生産性及び品質などの能力を調査中である。

イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点
特になし。

ウ 成 果

ピヨのヒナの羽色も確実に有色となり、導入した2系統が利用できることが判明した。

（詳細は、3.1 試験研究調査事業別実施状況調べ参照）

エ 課 題

- ・導入した2系統のうち1系統は4週齢以降、急激な増体による脚弱鶏が発生し育成率が低くなった。育雛段階から脚に負担をかけない様な飼育管理対策が必要である。
- ・平成22年3月末現在、GSR雄と導入した2系統の雌により、交雑種であるピヨのヒナを作出しており、増体等の生産性及び品質を比較検討することが必要である。

Ⅳ「鳥取地どりピヨ」のヒナ生産試験（H21-）

ア 目的及び事業の実施状況

（ア）目的

旧山陰食鶏農協による地鶏生産の休止のため、農家への「鳥取地どりピヨ」のヒナ供給が停止したことをうけ、「鳥取地どりピヨ」のヒナを生産し、農家へ安定的に供給する。

(イ) 事業の実施状況

- ・ヒナ生産のための親鶏を作出、導入し、種鶏として使用するため、制限給餌等しながら飼育した。
- ・毎月の約250羽の出荷に向けて、毎日の集卵、貯卵、毎月のふ卵、孵化を行った。

イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

(詳細は、31試験研究調査事業別実施状況調べ参照)

- ・ヒナとなる種卵の確保のため、ビタミン添加等を行い、母鶏の産卵個数の増加に努めた。
- ・ヒナの孵化羽数の確保のため、受精率、孵化率向上を図るべく、季節、鶏の日齢にあわせ、1日2回集卵や人工授精等の対策を行った。

ウ 成果

年間3,000羽の供給計画に対し、本年度は、3,248羽出荷することができた。

エ 課題

- ・種鶏(親鶏)の加齢に伴い、産卵率の低下及び、受精率、孵化率の低下が顕著なるため、種鶏の更新時期は特に注意が必要である。
- ・母鶏の加齢に伴う卵重増加も孵化率低下に繋がるため、卵重抑制に向けて検討する必要がある。
- ・安定的な供給に向けて、季節等によるふ卵技術のマニュアル化等が必要である。
- ・生産現場でのピヨの尻つつき防止のため、初生でのデビーク(*3)を検討する必要がある。

*3:デビークとは、ヒナの嘴を3分の1程度カットすること。

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要	要
<p>高濃度臭気に対応した低コスト新微生物脱臭装置の検討</p> <p>決算（見込）額 1,023千円</p> <p>（財源内訳） 一般財源 1,023千円</p> <p>○将来ビジョン 3守る （1）豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 高濃度の悪臭が発生する堆肥化施設では、地域との調和を図るため、臭気対策が不可欠となっているが、施設費（特に微生物保持する担体）が高額であるため農家での普及が進んでいないのが現状である。 そこで、高濃度臭気が発生する堆肥化施設に対応した、安価な微生物保持担体の検索と、脱臭装置の開発を行うものである。</p> <p>（イ）事業の実施状況 養鶏農家の堆肥化施設で、ガラス発泡材（廃ガラスを石灰と混ぜて900度で焼成したもの）を担体として使用した、微生物脱臭装置（微生物の働きにより悪臭成分を除去する装置）の実証展示試験を実施した。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農家でガラス発泡材を担体として使用した微生物脱臭装置を設置し、年間を通じてどの程度悪臭除去が可能か性能調査を実施した。 2 脱臭装置の管理方法を検討した。（散水量・送気温度等） <p>ウ 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新たな微生物保持担体としてガラス発泡材が有望であることを確認した。 2 年間を通して悪臭成分はほぼ完全に除去され、実用化の見通しがたった。 3 養豚場、養鶏場、鶏肉処理工場でこの施設を導入したいという要望があり、普及が進むことが期待される。 <p>エ 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各農家の堆肥化施設に対応した脱臭装置の施設規模を設定する必要がある。 2 密閉畜舎の臭気対策としての脱臭装置を検討する必要がある。 	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>鳥取県産大山赤ぶたの創出</p> <p>決算（見込）額 19,070千円</p> <p>（財源内訳） 一般財源 11,610千円 財産収入 7,459千円 その他 1千円</p> <p>I ひらく （4）食のみやこ 鳥取県</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 養豚農家の経営安定を図るため、中小家畜試験場において、肉質の優れたデュロック種（オス）の種豚改良（系統造成）を行う。</p> <p>（イ）事業の実施状況 平成21年度は平成20年度に選抜した第5世代豚の交配により生産した第6世代豚の子豚78頭について肉質分析を行い、能力の高い豚を選抜し系統豚「大山赤ぶた」を完成させる。平成22年度より県内養豚農家へ種豚或いは人工授精用精液の供給を開始する。</p> <p>イ 平成21年度実施に当たり改善等に取り組んだ点 BLUP法アニマルモデルにより育種価を算出し、これを指標とした精度の高い選抜を行った。 また、家畜改良センターと連携し、筋肉内脂肪含量（霜降り肉）に関するDNA分析を行い、選抜に取り入れた。</p> <p>ウ 成果 改良形質である1日平均増体重、筋肉内脂肪含量、背脂肪厚、ロース断面積については概ね目標を達成できた。 脂肪酸組成調査の結果旨み成分の指標となるオレイン酸含有量も高く、生産者も赤ぶたの種豚供給に期待している。H21年度成績は現在調査中である。</p> <p>エ 課題 種豚供給については、需要調査を行い計画的な供給体制の構築が必要である。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>豚凍結精液の生産技術の改善試験</p> <p>決算（見込）額 13,825千円</p> <p>（財源内訳） 一般財源 7,147千円 財産収入 6,678千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的</p> <p>液状精液をカテーテルで雌に注入する人工授精は、コストと労力の削減に効果的なため、年々普及しつつある。県内の普及率は、H17で37% からH22で64%まで上昇した（全国は40%）。</p> <p>しかし液状精液での精子は、10日間しか生存できない等、取り扱いに難がある。また試験場から農家へは宅配便で送るため、急に交配が必要となった場合は対応できない。</p> <p>これらは凍結精液であれば解決する問題であるが、豚の凍結精液は活力が低く、実用化されていなかった。</p> <p>人工授精の利用を促進するため、肉豚の生産農場でも使える、融解後の活力の高い凍結精液の生産技術を確立する。</p>	
<p>I ひらく</p> <p>（4）食のみやこ鳥取県</p>	<p>（イ）事業の実施状況</p> <p>1) 20年度に引き続き、生産方法を改善した凍結精液による交配試験を行った。耐凍剤を加え凍結を始める温度を、変更した結果、受胎成績は液状精液並に向上した。</p> <p>2) 産子数を向上させるため、精液を子宮に注入する深部注入カテーテルによる交配試験を行った。</p> <p>3) 凍結精液の農家実証試験を、2月より実施中である。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>深部注入カテーテルの試験使用と、農家普及にも取り組んだ。このカテーテルは売り出されたばかりだが、通常の液状精液の場合、産子数は1頭増えるとのデータがある。</p> <p>ウ 成果</p> <p>凍結方法の改善により、受胎率が向上し、液状精液並の成績となった。</p> <p>この結果から、農家が凍結精液の利用を申し出られ、H22年2月より継続的に利用されている。凍結精液が農家で利用された例は、世界的にも少ないため、今後も成績及び利用に当たっての改善点など追跡調査する予定である。</p> <p>エ 課題</p> <p>産子数が、安定的に液状精液並（10～12頭）になれば、利用の範囲が広がる。今後、深部注入カテーテル（子宮内部に精液を注入する）での産子数を検証しながら、液状精液並の成績とするための検討を続ける。</p>	

7 歳出調書 (総括表) (一般会計)

平成22年1月31日現在 (単位:円)

区分	科目	予算				算現額			翌年度繰越額C	差引増減額A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越事業費繰越額	予備費支出及び流用増減	計A	支出済額B				
歳出	農業総務費	7,833,000	13,345,000			21,178,000	17,209,614		3,968,386		
	農業改良普及費	61,362,000	0			61,362,000	9,006,451		52,355,549		
	農業試験場費	72,722,000	85,696,000			158,418,000	25,071,647		133,346,353		
	園芸試験場費	167,225,000	17,597,000			184,822,000	61,207,612		123,614,388		
	畜産試験場費	119,999,000	14,225,000			134,224,000	75,759,556		58,464,444		
	中小家畜試験場費	68,382,000	0			68,382,000	37,960,485		30,421,515		
	林業振興費	9,316,000	0			9,316,000	1,332,090		7,983,910		
	林業試験場費	58,091,000	50,498,000			108,589,000	44,460,209		64,128,791		
	合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664		474,283,336		
		農林水産業使用料	0				13,740			▲ 13,740	
同 上	行政財産使用料	0					872,565		▲ 872,565		
	農林水産業手数料	3,106,000				3,106,000	102,720		3,003,280		
	農林水産業費国庫補助金	22,147,000	112,312,000			134,459,000	11,520,000		122,939,000		
	農林水産業費委託金	1,049,000				1,049,000	1,957,000		▲ 908,000		
	財産貸付収入	277,000				277,000	22,158		▲ 254,842		
	生産物売払収入	44,142,000				44,142,000	45,205,629		▲ 1,063,000		
	家畜類売払収入	42,441,000				42,441,000	46,910,099		▲ 4,469,099		
	地域活性化・生活対策臨時交付金基金繰入金		28,531,000			28,531,000			28,531,000		
	農業等検定受託事業収入	15,170,000				15,170,000	4,510,000		10,660,000		
	農林水産研究高度化事業受託収入	7,122,000				7,122,000	10,278,000		▲ 3,156,000		
内 訳	プロジエクト研究受託事業収入	1,000,000				1,000,000	1,000,000		0		
	肥育技術実証試験受託事業収入	544,000				544,000	544,000		0		
	森林総合研究所受託事業収入		1,500,000			1,500,000	1,500,000		0		
	農業・食品産業技術総合研究機構受託事業収入		1,755,000			1,755,000			1,755,000		
	国立大学法人鳥取大学受託事業収入		2,950,000			2,950,000			2,950,000		
	関西地区林業協議会受託事業収入		2,040,000			2,040,000	2,040,000		0		
	雑入	708,000				708,000	600,853		107,147		
	小 計	137,706,000	149,088,000			286,794,000	127,076,764		159,717,236		
	一般県費充当	427,224,000	32,273,000			459,497,000	144,930,900		314,566,100		
	合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664		474,283,336		

8 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(中小家畜試験場費)					
中小家畜試験場管理運営費	22,797,000	12,841,485	0	9,955,515	施設の維持管理、非常勤職員の雇用等、試験場の管理運営を行った。
開かれた畜産研究機関・交流推進事業	105,000	105,000	0	0	広く県民に対し、展示パネル等により、研究成果の説明、新技術の伝達を行った。
試験研究費	45,480,000	25,014,000	0	20,466,000	各種試験研究を行った。
(「鳥取地どりピヨ」の改良試験)					「6主な事業に関する調べ」に記載
(高濃度臭気に対応した低コスト新微生物脱臭装置の検討)					〃
(鳥取県産大山赤ぶたの創出)					〃
(豚凍結精液の生産技術の改善試験)					〃
(鶏における飼料米給与試験)					「31試験研究調査事業実施状況調べ」に記載
(高品質堆肥製造技術の検討)					〃
(食品残渣を利用した低コスト飼料給与試験)					〃
(海洋性未利用資源の飼料化実証試験)					〃
目 計	68,382,000	37,960,485	0	30,421,515	
合 計	68,382,000	37,960,485	0	30,421,515	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ 該当なし

1 1 収入証紙取扱額調べ 該当なし

1 2 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

平成22年1月31日現在
(単位：円)

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
行政財産使用料			2	3,540	3,540	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
	計(節)		2	3,540	3,540	0	0		
	目計		2	3,540	3,540	0	0		
	合計		2	3,540	3,540	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

平成22年1月31日現在
(単位：円)

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
生産物売払収入			1,508	1,441,650	1,390,200	0	51,450	生産品事務取扱要領(物品規則)	
		精液売払							
		ヒナ	2,548	242,880	242,880	0	0	〃	
	計(節)		4,056	1,684,530	1,633,080	0	51,450		
	目計			1,684,530	1,633,080	0	51,450		
家畜類売払収入			114	11,709,788	10,281,322	0	1,428,466	生産品事務取扱要領(物品規則)	
		豚売払							
	計(節)		114	11,709,788	10,281,322	0	1,428,466		
	目計		114	11,709,788	10,281,322	0	1,428,466		
	合計		4,170	13,394,318	11,914,402	0	1,479,916		

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入 該当なし

13 税外収入未済額調べ

平成22年1月31日現在
(単位：円)

区分 収入科目	過年度分										現年度分		収入未済額計 A+B	未收理由
	前年度 以前からの繰 越額	左のう ちの収 入済額	不納欠 損額	収入 未済額 A	収入未済額の調定年度内訳			収入 未済額 B	収入済額	調定額	収入 未済額 B			
					18年度 以前	19年度	20年度							
生産物売 払収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,450	0	51,450	51,450	納期未到来
精液売 払収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,450	0	51,450	51,450	H22.2.12完納
計(節)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,450	0	51,450	51,450	
目計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,428,466	0	1,428,466	1,428,466	納期未到来
家畜類売 払収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,428,466	0	1,428,466	1,428,466	H22.2.22完納
豚売払 収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,428,466	0	1,428,466	1,428,466	
計(節)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,428,466	0	1,428,466	1,428,466	
目計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,428,466	0	1,428,466	1,428,466	
雑入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
雑入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
目計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,479,916	0	1,479,916	1,479,916	

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ 該当なし

- 1 6 債務負担行為の状況調べ 該当なし
- 1 7 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ 該当なし
 - (1) 負担金 該当なし
 - (2) 補助金 該当なし
 - (2-2) 補助金 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの) 該当なし
 - (3) 交付金 該当なし

(4) 委託料

(平成22年1月31日現在) (単位:円)

予算科目 (目)	国 単 の 別	委託料の 名称	委託契約の 相手方	当初		契約		入札等 年月日 (契約締結 専用)	完了 年月日	支出の状況			備 考	
				予定価格	契約額 (契約年月日)	契約 期間	契約 期間			契約形態	支出 年月日	支出 区分		金額
中小家畜試験 場費	単県	電気保安業 務委託料 (本場)	森田電気管 理事務所	311,220 (H21.3.31)	311,220 (H21.3.31)	H21.4.1 ~H22.3.31	H21.3.20 (免除)	H21.5.7 外	H21.5.7 外	精算	H21.5.12 外	259,350		
中小家畜試験 場費	単県	ダイオキシ ン類濃度測 定分析業務	(社)鳥取県 保健事業団	279,300 (H21.4.6)	279,300 (H21.4.6)	H21.4.1~ H22.3.31	H21.3.26 (免除)	H21.12.16 外	H21.12.16 外	精算	H21.7.7	346,500	H22.2.2 279,300支払	
中小家畜試験 場費	単県	焼却炉保守 点検	インシナー 商事(株)	346,500 (H21.4.7)	346,500 (H21.4.7)	H21.4.1~ H22.3.31	H21.3.19 (免除)	H21.6.20 外	H21.6.20 外	精算	H21.7.7	346,500		
中小家畜試験 場費	単県	警備委託 (本場)	大同警備保 障(有)	201,600 (H21.3.25)	201,600 (H21.3.25)	H21.4.1~ H22.3.31	H21.3.26 (免除)	H21.4.30 外	H21.4.30 外	精算	H21.5.15	173,250		
中小家畜試験 場費	単県	絹屋分場除 草業務	(社)南部広 域シルバー 人材センタ ー	314,400 (H21.5.26)	31,500 (H21.5.26)	H21.5.26~ H22.3.31	随	H21.4.30 外	H21.4.30 外	精算	H21.12.1 外	314,400		
中小家畜試験 場費	単県	樹木剪定業 務(本場)	山陰緑化建 設(株)	231,000 (H21.10.5)	231,000 (H21.10.5)	H21.10.19~ H21.10.23	H21.10.15 (免除)	H21.10.23 外	H21.10.23 外	精算	H21.11.6	231,000		
予定価格が20万 円未満のもの												312,585		
目計												1,637,085		
合計												1,637,085		

(4-2) 委託料 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

18 工事請負費調べ 該当なし

18-2 工事請負費調べ (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの) 該当なし

19 財産に関する調べ

(1) 公有財産
ア 土地

(平成22年1月31日現在)

行政 ・普 通財 産の 区分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記 年月日	
行政 財産	中小家畜試験場 本場敷地	南部町北方山ノ 奥尻1216-1外	124,741.76		増加	H			124,741.76		
					減少	H					
計	中小家畜試験場 綿屋分場敷地	南部町北方山門 ナシ108外	62,251.82		増加	H			62,251.82		
					減少	H					
普通 財産			186,993.58		増加	H			186,993.58		
計					減少	H					
合計			0						0		
合計			186,993.58						186,993.58		

イ 建物

(平成22年1月31日現在)

行政 部局 の区分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		増減 別	異動日	本年度異動状況				本年度末		備 考
			面積 (㎡)	価額 (円)			面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登 記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政 財産	本館	南部町北方	772.20	100,523,353	増 減						772.20	100,523,353	
	ボンベ庫	南部町北方	6.80	448,071	増 減						6.80	448,071	
	種雄豚舎	南部町北方	104.16	6,936,000	増 減						104.16	6,936,000	
	雌豚試験舎	南部町北方	306.85	16,450,000	増 減						306.85	16,450,000	
	分娩豚舎	南部町北方	226.40	13,251,000	増 減						226.40	13,251,000	
	子豚試験舎	南部町北方	207.36	15,504,000	増 減						207.36	15,504,000	
	第一肉豚試験舎	南部町北方	273.06	18,746,000	増 減						273.06	18,746,000	
	第二肉豚試験舎	南部町北方	132.00	10,686,000	増 減						132.00	10,686,000	
	と場	南部町北方	156.90	30,250,000	増 減						156.90	30,250,000	
	解剖舎	南部町北方	20.00	1,623,000	増 減						20.00	1,623,000	
	現場管理舎	南部町北方	70.00	4,888,000	増 減						70.00	4,888,000	
	わら収納舎	南部町北方	50.00	2,142,000	増 減						50.00	2,142,000	
	堆肥舎	南部町北方	102.00	3,717,000	増 減						102.00	3,717,000	
	飼料庫	南部町北方	126.14	7,628,000	増 減						126.14	7,628,000	
	本館車庫	南部町北方	35.75	1,452,000	増 減						35.75	1,452,000	
	総合実験鶏舎	南部町北方	612.00	139,331,109	増 減						612.00	139,331,109	
	育成試験舎	南部町北方	396.00	24,925,972	増 減						396.00	24,925,972	
	衛生舎	南部町北方	24.00	2,988,903	増 減						24.00	2,988,903	
	種鶏舎	南部町北方	209.00	16,618,573	増 減						209.00	16,618,573	
	器具庫・車庫	南部町北方	100.00	9,986,732	増 減						100.00	9,986,732	
	鶏糞乾燥場	南部町北方	107.00	7,027,299	増 減						107.00	7,027,299	
	鶏糞乾燥場ボイラー室	南部町北方	10.51	647,177	増 減						10.51	647,177	
	井戸ポンプ室	南部町北方	11.68	1,401,554	増 減						11.68	1,401,554	
	給餌場	南部町北方	32.94	2,522,532	増 減						32.94	2,522,532	
	自転車置場	南部町北方	5.60	627,014	増 減						5.60	627,014	
	第二分娩舎	南部町北方	250.33	32,197,800	増 減						250.33	32,197,800	
	同上採糞場	南部町北方	9.00		増 減						9.00		
	分娩豚舎採糞場	南部町北方	9.00	83,366,850	増 減								0
	堆肥化処理施設	南部町北方	414.80		増 減								0
	種雌種雄舎採糞場	南部町北方	23.75		増 減						23.75		0
	選抜検定豚舎	南部町北方	681.00	20,818,500	増 減						681.00	20,818,500	
	バイテク棟	南部町北方	150.00	14,790,765	増 減						150.00	14,790,765	
	離乳豚舎採糞場	南部町北方	9.00	887,446	増 減						9.00	887,446	
	種豚豚舎採糞場	南部町北方	9.00	887,446	増 減						9.00	887,446	
肉豚試験採糞場	南部町北方	9.00	887,446	増 減						9.00	887,446		
北方本場小計			5,663.23	580,919,793	増 減					5,663.23	580,919,793		

(中小家畜試験場つづき)

行政 普通財産 の区分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		増減 別	異動日	本年度異動状況			登記 年月日	本年度末		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)			面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由		面積 (㎡)	価額 (円)	
行政 財産	分娩豚舎	南部町北方	184.00	3,255,000	増 減						184.00	3,255,000	
	育成豚舎	南部町北方	192.00	2,884,000	増 減						192.00	2,884,000	
	種豚豚舎	南部町北方	63.75	844,500	増 減						63.75	844,500	
	母豚群飼豚舎	南部町北方	201.87	1,959,500	増 減						201.87	1,959,500	
	飼料庫	南部町北方	48.60	491,500	増 減						48.60	491,500	
	管理室	南部町北方	67.72	1,762,000	増 減						67.72	1,762,000	
	農機具格納庫	南部町北方	68.00	738,500	増 減						68.00	738,500	
	コ口ニ一舎	南部町北方	168.00	1,176,000	増 減						168.00	1,176,000	
	便所	南部町北方	4.97	198,000	増 減						4.97	198,000	
	種雄豚舎	南部町北方	259.20	16,991,000	増 減						259.20	16,991,000	
	検定豚舎	南部町北方	216.00	14,159,000	増 減						216.00	14,159,000	
	育成選抜豚舎	南部町北方	522.00	39,280,000	増 減						522.00	39,280,000	
	分娩豚舎	南部町北方	231.00	17,122,000	増 減						231.00	17,122,000	
	種雌豚舎	南部町北方	238.60	13,484,898	増 減						238.60	13,484,898	
	糞尿処理施設	南部町北方	270.00	15,965,000	増 減						270.00	15,965,000	
	肥育豚舎	南部町北方	230.00	28,634,000	増 減						230.00	28,634,000	
	実験室棟	南部町北方	59.80	18,849,000	増 減						59.80	18,849,000	
		絹屋小計		3,025.51	177,793,898	増 減						3,025.51	177,793,898
計			8,688.74	758,713,691							8,688.74	758,713,691	
普通 財産	該当なし		0.00	0	増 減						0.00	0	
計			0.00	0							0.00	0	
合計			8,688.74	758,713,691							8,688.74	758,713,691	

- ウ 山林 該当なし
- エ 不動産売却等 該当なし
- オ 財産の交換 該当なし
- カ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし
- キ 物権 該当なし
- ク 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし
- ケ 有価証券 該当なし
- コ 出資による権利 該当なし

(2) 金券類の受払状況

(平成22年1月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 90,530	円 0	円 52,850	円 37,680	
収入印紙	0	0	0	0	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
合 計	90,530	0	52,850	37,680	

(3) 基金 該当なし

(4) 債 権

(平成22年3月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				本年度末		備 考
	金 額	件 数	増		減		金 額	件 数	
			金 額	件 数	金 額	件 数			
行政財産使用料	円 1,080	1	円 15,000	1	円 3,540	2	円 12,540	2	
合 計	1,080	1	15,000	1	3,540	2	12,540	2	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物

ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先住所氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産	電気通信設備設置	南部町絹屋	コンクリート柱3本	H18.3.24	H8.4.4	H18.4.1 ～ H23.3.31	月額・年額 540	540	岡山市中山下2-1-90 西日本電信電話(株) 岡山支店	
	電柱支持支線設置	南部町原	支線 2条	H21.4.1	S59.8.24	H21.4.1 ～ H26.3.31	月額・年額 3,000	3,000	米子市加茂町2-51 中国電力(株) 米子営業所	
計										
普通財産	-						月額・年額			
計										
合計								3,540		

イ 建物 該当なし

(2) 物品 (1品の取得価格が100万円以上のもの) 該当なし

21 借受不動産明細調べ 該当なし

2.2 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	中小家畜試験場(西伯郡南部町北方633)	13.5	0
普通財産	該当なし		

イ 異動状況

(行政財産)

月別	月初日	減		増		月末日		調定額	収入済額	収入未済額
		うち減免	人	うち減免	人	うち減免	うち減免			
4月	19日	人	人	人	人	19日	19日	0円		
5月	18		1	1		19	19	0		
6月	19					19	19	0		
7月	19					19	19	0		
8月	19					19	19	0		
9月	19					19	19	0		
10月	19					19	19	0		
11月	19					19	19	0		
12月	19					19	19	0		
1月	19		1	1		20	20	0		
2月	20					20	20	0		
3月								0		
合計								0	0円	0円

2.3 自動車（二輪を除く）の管理状況調べ

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度			備考
					稼働 日数	(1ヶ月平均) 走行キロ数	修理費等	
小型四輪貨物	H12	鳥取400 さ25-17	H 12. 7. 6	km 47,294	日 78	() km (461) 4,606	円 175,010	
合計		台 1					175,010	

2.4 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

2.5 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格	不用 決定 年月日	不用 とする 理由	処 分			備考
							売却 棄却 の別	売却方 法・棄却 理由	処分 年月日	
豚 (テュロック・雄5049)	1	(H20.4.1) H19.5.30	3	64,768	H21.4.1	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.4.2	17,760	
豚 (テュロック・雄6176)	1	(H20.4.1) H19.5.30	3	64,768	H21.4.29	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.4.30	18,594	
豚 (ラントレース・雌8082)	1	(H20.11.4) H20.11.4	3	58,019	H21.4.29	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.4.30	16,429	
豚 (大ヨークシャー・雄7119)	1	(H20.5.20) H20.5.20	3	58,019	H21.5.10	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.5.11	17,854	
豚 (大ヨークシャー・雌6117)	1	(H20.4.1) H19.5.7	3	64,768	H21.5.31	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.6.1	24,180	
豚 (テュロック・雌7185)	1	(H20.9.9) H20.9.9	3	58,019	H21.7.20	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.7.21	26,652	
豚 (LW・雌6328)	1	(H20.4.1) H19.9.10	3	64,768	H21.7.20	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.7.21	29,517	
豚 (テュロック・雄7262)	1	(H20.9.9) H20.9.9	3	58,019	H21.7.23	繁殖能力 低下	売却 随意契約	H21.7.24	37,800	
豚 (テュロック・雌7449)	1	(H20.9.9) H20.9.9	3	58,019	H21.7.26	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.7.27	21,293	
豚 (ラントレース・雌7378)	1	(H20.11.14) H20.11.14	3	58,019	H21.7.26	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.7.27	24,920	
豚 (大ヨークシャー・雌7478)	1	(H20.11.14) H20.11.4	3	58,019	H21.7.26	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.7.27	23,811	
豚 (テュロック・雄7016)	1	(H20.9.9) H20.9.9	3	58,019	H21.8.19	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.8.20	19,315	

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用 決定 年月日	不用 とする 理由	処 分			備考
							売却 棄却 の別	売却方 法・棄却 理由	処分 年月日	
豚 (LW・雌7389)	1	(H20.11.14) H20.11.14	3	58,019	H21.9.1	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.9.2	24,120	
豚 (LW・雌6314)	1	(H20.4.1) H19.9.10	3	64,768	H21.9.9	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.9.10	22,608	
豚 (大ヨークシャー・雌6956)	1	(H20.4.1) H19.4.20	3	50,000	H21.9.9	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.9.10	22,381	
豚 (LW・雌6326)	1	(H20.4.1) H19.9.10	3	64,768	H21.10.7	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.10.8	26,312	
豚 (大ヨークシャー・雌7479)	1	(H20.11.14) H20.11.14	3	58,019	H21.10.7	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.10.8	20,774	
豚 (デュロック・雄7064)	1	(H20.9.9) H20.9.9	3	58,019	H21.11.3	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.12.1	18,094	
豚 (ランドレース・雌7346)	1	(H20.11.14) H20.11.14	3	58,019	H21.11.3	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H21.12.1	21,496	
豚 (大ヨークシャー・雄8538)	1	(H21.9.25) H21.9.25	3	63,000	H22.1.12	繁殖不良 のため	売却 委託販売	H22.1.13	9,207	
小 計	20			1,197,836					443,117	
豚 (ランドレース・雄7090)	1	(H20.5.20) H20.5.20	3	58,019	H22.1.27	肺炎のた め	亡失 肺炎のた め死亡	H22.1.27	0	
小 計	1			58,019					0	
冷蔵庫	1	S47.7.20	5	58,000	H21.8.17	修理不能	売却 修理不能	H21.8.17	3,900	
小 計	1			58,000					0	
合 計	22			1,376,855					493,217	

2.6 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成22年1月31日現在)

現金、有価 証券又は物 品名	数 量	金 額	出納員又は 使用者職氏 名	亡失、損傷 年月日、時	同左場所	同左概要	報 告 年月日	会計局 の審査 結果
豚 (ランドレース・ 雄7090)	1	円 58,019	養豚研究室 長 岡本英夫	H22.1.27	中小家畜 試験場 養豚研究 室	19日頃食欲不振 となり抗生物質 投与するも27日 に死亡。	H22.2. 8	賠償責 任なし
合 計	1	58,019						

2.7 貸付金等状況調べ

該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目 名		農業総務費		(平成22年 1月31日現在)
事業名	予 算 令 達 額 円	支 出 済 額 円	左 の 事 業 内 訳	
農林水産 試験場臨 時的調査 研究事業	116,400 57,500 75,000 108,200 100,000	5,665 25,232 0 8,200 0	(事業概要) ● 菜種、ナタネ粕、エゴマ粕給与による新たな地鶏生産 ● 高温温風送風機を用いた「迅速で省コスト堆肥製造技術」の検討 ● パークシャー種の繁殖能力調査 ● DB種の産肉能力調査 ● 銘柄豚肉の熟成方法の検討	
計	457,100	39,097		

目 名		畜産振興費		
事業名	予 算 令 達 額 円	支 出 済 額 円	左 の 事 業 内 訳	
畜産農家環 境保全指導 事業	360,000	353,793	(事業概要) (目的) 畜産農家の污水及び臭気発生状況の調査 (実績) 県内調査件数： 污水14件 臭気12件	
計	360,000	353,793		

目 名		中小家畜試験場費		
事業名	予 算 令 達 額 円	支 出 済 額 円	左 の 事 業 内 訳	
中小家畜試 験場管理運 営費	22,797,000	12,841,485	(事業概要) 施設の維持管理、非常勤職員の雇用等、試験場の管理運営を行った。	
開かれた畜 産研究機関 ・交流推進 事業	105,000	105,000	(事業概要) 広く県民に対し、展示パネル等により、研究成果の説明、新技術の伝達を行った。	

事業名	予算 令達額 円	支出済額 円	左の事業内訳
「鳥取地どりピヨ」の改良試験	8,037,000	4,420,350	(事業概要) 6 主な事業に関する調べに記載 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
鶏における飼料米給与試験	101,000	55,550	(事業概要) 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
高濃度臭気に対応した低コスト新微生物脱臭装置の検討	1,023,000	562,650	(事業概要) 6 主な事業に関する調べに記載 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
高品質堆肥製造技術の検討	1,284,000	706,200	(事業概要) 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
鳥取県産赤ぶたの創出	19,070,000	10,488,500	(事業概要) 6 主な事業に関する調べに記載 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
豚凍結精液の生産技術の改善試験	13,825,000	7,603,750	(事業概要) 6 主な事業に関する調べに記載 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
食品残渣を利用した低コスト飼料給与試験	1,475,000	811,250	(事業概要) 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
海洋性未利用資源の飼料化実証試験	665,000	365,750	(事業概要) 3 1 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
計	68,382,000	37,960,485	

29 農業機械の管理状況

(平成22年1月31日現在)

品名	型式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 日	燃 料		修繕費等 円	左の主な内容 円	備 考
					消費量 ℓ	金 額 円			
芝刈機	LM-40A	S55. 3.29	芝草刈り	1	ガソリン 0	0	0	0	
トラクター	ホクダイL-R 18	S57. 6.17	除草、除雪 等	7	軽油 36	3,816	0	0	
トラクター	ホクダイL43 BMAP	H15. 9.12	除草、堆肥 運搬	25	軽油 59	6,254	0	0	
小型ローダー	小松SK05	H5. 10.29	堆肥切り返 し	104	軽油 95	10,070	0	0	
ホイールロー ダー	ホクダイR430 Z	H21. 7.17	堆肥切り返 し	19	軽油 20	2,120	0	0	
動力運搬車	カワサキRA 4WD-D	H16. 12.28	機材等の運 搬	61	ガソリン 16	1,808	0	0	
動力運搬車	カワサキRQ 4WD-DV	H7. 8.31	豚糞の運搬	183	ガソリン 51	6,579	27,300	リヤタイヤ脱着 27,300	
動力運搬車	カワサキRQ 4WD-DV	H7. 8.31	豚糞の運搬	126	ガソリン 41	4,969	30,450	リヤタイヤ脱着 30,450	
計					軽油 210 ガソリン 108	22,260 13,356	57,750	57,750	

30 生産物（品）に関する調べ

(平成22年1月31日現在)

生産 部門	品名 種類	作付 面積	生産 計画 数量	生産数量			場内 使用	処分量						分類 換	差引 残	備考	
				前年度 からの繰 越	生産 購入	計		売却		目的外使用		廃棄	計				
								数量	金額	数量	金額		数量				金額
養鶏	成鶏		羽	羽 278	羽 200	羽 478	羽	羽	円	羽	円	羽 354	羽 354	円	羽 427	羽 551	
	育成鶏		羽	羽 294	羽 4,133	羽 4,427	羽 224	羽 2,548	円 242,880	羽	円	羽 1,006	羽 3,778	円	羽 -427	羽 222	分類 換は 成鶏 へ
	種卵			個 82	個 11,57	個 11,658	個 8,877	個 0	円 0	個	円	個 200	個 200	円		個 2,581	
養豚	精液		4,000	0	4,402	4,402	191	1,508	1,441,650			2,303					
計			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
養豚	動物		40	48	34	82	頭	頭 20	円 443,117	頭	円	頭 1	頭 21	円 443,117	頭 29	頭 61	
	生産物		900	243	1,031	1,274		880	11,266,671			74	954	11,266,671	-29	291	
計			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

3 1 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	「鳥取地どりピヨ」の改良試験		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	平成15年度 ～ 27年度		(予算額)	(8,037,000 円)
			支出済額	4,420,350 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
I 県外導入する原種系の能力検定を実施し、「鳥取地どりピヨ」の性能向上を図る。	中小家畜試験場	ｼﾏﾓ(雄) 大型:10羽 中型:10羽 ﾛｰﾄﾞｱｲﾗﾝﾄﾞﾚｯﾄ(雌) 32羽	導入する父系の親鶏の能力を検定し、性能維持と品質向上を図る。	<p>(試験結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型ｼﾏﾓはH17以降体重の減少傾向が続いたが、H21は再び増加した。結果累計飼料要求率は3.25、対前年比85%と改善された。 ・中型ｼﾏﾓはH17以降体重の大型化傾向にあったが、H21は落ち着き、昨年度並であった。累計飼料要求率は3.50、対前年比102%とやや低下した。 ・ﾛｰﾄﾞｱｲﾗﾝﾄﾞﾚｯﾄは、過去4年間の体重平均2736.9gに対し2718.0gであり安定している。累計飼料要求率は3.57、対前年比108%とやや低下した。 <p>(成果)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p> <p>(課題)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p>
II 鳥取県独自の地鶏種鶏群(雄系)の改良を図る。	中小家畜試験場	交雑種 選抜分 453羽 兄弟検定分 511羽	魅力的で独自性があり、高位に安定した品質を持つ血統を作出する。	<p>(試験結果)</p> <p>(1) M5世代の孵化</p> <p>M5兄弟検定分: 511羽 (H21. 2. 24孵化)</p> <p>M5選抜分: 453羽 (H21. 6. 16孵化)</p> <p>注) M5兄弟検定分: 精肉調査調査用</p> <p>M5選抜分: 選抜、及び次世代作出用</p> <p>(2) 単冠の発現</p> <p>M5兄弟検定分: 17羽/冠確認羽数236羽 (単冠発現率: 7.2%)</p> <p>M5選抜分: 21羽/冠確認羽数401羽 (単冠発現率: 5.2%)</p> <p>単冠因子保有状況 (M5選抜分、M5追加分合計)</p> <p>単冠因子ホモ: 19羽 (保有率: 4.8%)</p> <p>単冠因子ヘテロ: 150羽 (保有率: 37.6%)</p> <p>三枚冠因子ホモ: 221羽 (保有率: 55.4%)</p> <p>(3) 98日齢成績 (平均体重)</p> <p>M5兄弟検定分: 雄2561.7g/羽 (73.6g up) 雌1870.8g/羽 (43.4g up)</p>

				<p>M5選抜分： 雄2536.4g/羽(85.7g up) 雌1831.3g/羽(48.1g up)</p> <p>注) ()内数字は、前の世代の平均体重との比較</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度発見したQTLの近傍マーカ―を選抜に利用した。また、利用にあたり、導入鶏から第5世代までの産卵率のQTL近傍マーカ―の状況を確認した。 ・第5世代鶏での選抜に、増体と産肉量の育種価を用い、家系内で育種価の高いものを選んだ。あわせて、単冠因子保有状況と血縁係数も考慮し交配を決定した。 ・第4世代では育すう期の育成率の低下が見られたが、育すう管理技術の見直し等により、第5世代では育すう期の育成率が向上した(63.2%(第4世代)→94.3%(第5世代))。 <p>(課題)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p>												
<p>皿販売阻害の要因除去(白色の羽色形質の除去)を図るため、「鳥取地どりピヨ」の羽色を有色にする2系統の母鶏の能力を調査する。</p>	<p>中小家畜試験場</p>	<p>白色プリマロック 13系24羽 981×13系 25羽</p>	<p>販売阻害の要因除去(白色の羽色形質の除去)を図る。</p>	<p>(試験結果)</p> <p>1 母鶏の白色プリマロック2系統(13系、981×13系)の能力調査を行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>14週齢平均体重</td> <td>13系:1878g</td> </tr> <tr> <td></td> <td>981×13系:1796g</td> </tr> <tr> <td>育成率</td> <td>13系:58%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>981×13系:88%</td> </tr> <tr> <td>産卵率(31-40週)</td> <td>13系:56.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>981×13系:57.7%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・増体性は13系の方が優れていた。(対981×13系比105%) ・育成率は13系の方が低かった。(対981×13系比66%) ・産卵率は981×13系の方がやや上回っていた。(対13系比102%) <p>2 ピヨのヒナを作出し、羽色も有色となり遺伝的理論の確認ができた。</p> <p>(成果)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p> <p>(課題)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p>	14週齢平均体重	13系:1878g		981×13系:1796g	育成率	13系:58%		981×13系:88%	産卵率(31-40週)	13系:56.6%		981×13系:57.7%
14週齢平均体重	13系:1878g															
	981×13系:1796g															
育成率	13系:58%															
	981×13系:88%															
産卵率(31-40週)	13系:56.6%															
	981×13系:57.7%															

IV農家への「鳥取地どりピヨ」のヒナ供給が、停止したことをうけ、「鳥取地どりピヨ」のヒナを生産し、農家へ安定的に供給する。	中小家畜試験場	種鶏（母鶏）導入羽数 4月 60羽 5月 85羽	「鳥取地どりピヨ」のヒナ供給：年間3,000羽	(安定出荷に向けた取り組み) ・産卵率向上、産卵期間の延長・確保のため、制限給餌を実施した。 ・受精率向上のため、補助的に週1回人工授精を行った。 ・孵化率向上のため、集卵を午前と午後の2回行った。 ・孵化率改善のため、ふ卵前の加温プログラムの検討を行った。 ・夏期、冬期の温度変化による産卵率低下を防ぐため、ビタミンE添加の増量、扇風機の設置、巻き上げカーテンのすきま風防止等の処置を行った。
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

事業名	鶏における飼料米給与試験		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	H21年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(101,000円) 55,550円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
飼料米給与試験を本県の地鶏を対象として行い、飼料給与技術の確立を図る。	中小家畜試験場	GSR 45羽×3区 (餌付け羽数)	農業試験場の選定、収穫した品種の飼料米（モミ米）を地鶏（GSR）に給与し、体重の増加量、飼料要求率、産肉量、産卵成績に及ぼす影響を調査し、適正給与量を検討する。	(成果) 農業試験場の選定、収穫した飼料米（モミ米）を3月からの試験に向けて、モミ米の成分分析を実施中。3月孵化に向けて、人工授精、貯卵を実施中。 (課題) 普及に向けて、生産現場で実施可能な給与方法の確立が必要である。

事業名	高濃度臭気に対応した低コスト新微生物脱臭装置の検討		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	平成19年度 ～21年度		(予算額) 支出済額	(1,023,000円) 562,650円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
高濃度臭気が発生する堆肥化施設に対応した安価な微生物保持担体の検討及び脱臭装置を開発する。	養鶏場堆肥化施設	養鶏農家の堆肥化施設で、装置の実証展示を実施した	微生物脱臭装置の能力・管理方法について検討する。	<p>(試験結果)</p> <p>(1) ガラス発泡材を担体として使用した脱臭装置により、悪臭物質の平均除去率はアンモニア99.9%、硫黄化合物である硫化水素、メチルメルカプタンは100%であった。</p> <p>(2) 脱臭槽が10℃未満になる冬期間でもアンモニア除去率は99%以上であり、脱臭能力は維持された。</p> <p>(3) 散水量は春・秋・冬期：50L/時、夏期：70L/時が適当であることが判明した。</p> <p>(4) 冬期は配水管の凍結防止策、夏期は循環槽の循環水が蒸発するため井水の補充が必要となることが判明した。</p> <p>(成果)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p> <p>(課題)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p>

事業名	高品質堆肥製造技術の検討		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	平成21年度 ～ 22年度		(予算額) 支出済額	(1,284,000 円) 706,200 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
化学肥料の代替として利用できる窒素、リン酸成分の高い堆肥の製造技術を検討する。	中小家畜試験場	豚糞堆肥 5m ³ /3ヶ月 豚舎污水 2m ³ /日	(1)堆肥化で発生するアンモニア(NH ₃)の吸着と一酸化二窒素(N ₂ O)の揮散抑制により、堆肥中の窒素成分量(乾物あたり)を2.0→4.0%に向上させる。 (2)豚舎污水から結晶としてのリン酸を回収する。	(成果) (1)アンモニア吸着により、堆肥中窒素成分量(乾物あたり)を2.3→3.6%まで向上させることができた。 完熟堆肥添加による一酸化二窒素の揮散は約半分に抑制されたが、窒素保持効果は乾物あたり0.1%程度とあまり期待できないことがわかった。ただし、一酸化二窒素は地球温暖化ガスであり、その抑制効果としては期待された。 (2)豚舎污水からのリン酸回収量は少量であったが回収することができた。
				(課題) 豚舎污水からのリン酸回収量はまだ少ないため、回収量を増やすための工夫が必要である。

事業名	鳥取県産大山赤ぶたの創出		担当室別	養豚研究室
実施計画期間	平成15年度 ～ 21年度		(予算額)	(19,070,000円)
			支出済額	10,488,500円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
農家経営の安定のため肉質の優れたデュロック種を種豚改良する。	当场	デュロック種 雄 8頭 雌 40頭 子豚 320頭	6 主な事業に関する調べに記載	<p>(成果)</p> <p>平成21年度は平成20年度に選抜した第5世代豚の交配により生産した第6世代豚の子豚78頭について肉質分析を行い、能力の高い豚を選抜し系統豚「大山赤ぶた」を完成させる。平成22年度より県内養豚農家へ種豚或いは人工授精用精液の供給を開始する。改良形質である1日平均増体重、筋肉内脂肪含量、背脂肪厚、ロース断面積については概ね達成できた。</p> <p>H21年度までの目標達成率</p> <p>1日平均増体重 98.8%</p> <p>背脂肪厚 98.9%</p> <p>ロース断面積 100.7%</p> <p>筋肉内脂肪含量※ 86.0%</p> <p>(※筋肉内脂肪含量は現在肉質分析中であり、H20年度の数値)</p> <p>脂肪酸組成調査の結果旨み成分の指標となるオレイン酸含有量も高く、生産者も赤ぶたの種豚供給に期待している。H21年度成績は現在調査中である。</p> <p>(H20年度：オレイン酸含有率：赤ぶた 44.8% 通常豚 42.0%)</p> <p>(課題)</p> <p>6 主な事業に関する調べに記載</p>

事業名	豚凍結精液の生産技術の改善試験		担当室別	養豚研究室
実施計画期間	平成21年度 ～ 23年度		(予算額)	(13,825,000円)
			支出済額	7,603,750円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
肉豚の生産農場でも使える、融解後の活力の高い凍結精液の生産技術を確立する。	当场	繁殖母豚40頭	6 主な事業に関する調べに記載	(成果) 1) 20年度に引き続き、生産方法を改善した凍結精液による交配試験を行った。耐凍剤を加え凍結を始める温度を、従来の5℃から0℃に下げた結果、受胎成績は従来法の76%(21頭中16頭)から、90%(21頭中19頭)と液状精液並に向上した。産子数は8.9頭と、子数が極端に少ない事例が平均を下げ、液状精液の10～12頭に及ばなかった。 2) 産子数を向上させるため、精液を子宮に注入する深部注入カテーテルによる交配試験を行った。12頭中10頭が受胎した(受胎率83%)。産子数の結果は、2月以降となる。 3) 凍結精液の農家実証試験を、2月より実施中である
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

事業名	海洋性未利用資源の飼料化実証試験		担当室別	養豚研究室
実施計画期間	平成20年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(665,000 円) 365,750 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ヒトデを加工して豚に給与し、機能性飼料として健康改善効果及び普及性を検証する。	当场	繁殖母豚 44頭	ヒトデの乾燥粉末を豚に給与し、その影響や機能性について検討する。昨年母豚に給与し血中成分を測定したところ、ストレスの指標である血中コルチゾール量が低い傾向にあった。今年度はその効果を例数を増やして調査し、また、ヒトデに含まれているサポニン等の分析を行う。また繁殖成績や食欲に及ぼす影響も調査する。	(成果) 現在給与試験中。 (課題) 漁業関係者との連携。ヒトデ採取の労賃と飼料・添加剤としての販売価格の調整が必要。
事業名	食品残さを利用した低コスト化飼料給与試験		担当室別	養豚研修室
実施計画期間	平成20年度 ～ 21年度		(予算額) 支出済額	(1,475,000 円) 811,250 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
食品残さを飼料化して豚に給与し、飼料の給与効果及び生産コストの低減効果を検証する。	当场 生産農家	雑種24頭	地域内で排出される食品残さの有効利用のため、その残さを利用した飼料の給与効果を検証する。給与割合や給与時期を変えた試験を行い、効果的な給与方法を検討する。また生産コストの比較を行い、コストの低減効果及び普及性を検討する。	(成果) 時期や配合量を変えて肥育豚に給与したところ、肥育後期に給与した場合は飼料要求率が改善されたが、肉質にバラつきがあり、枝肉の上物率が低かった。肥育前期に給与した場合は、一日平均増体重がやや減り出荷日数が5日ほど延びたが、上物率が高く肉質の安定が図られた。給与飼料の一部を食品残さ飼料に置き換えることで生産コストの低減効果が期待される。 (課題) 食品残さの排出量、品質が不安定なため、農家としては使いづらい。飼料会社は自社製品が売れなくなるため、大々的な規模での製品化は現時点で難しい。他業種からの参入の希望もあるが、ある程度の規模が必要であり、条件・金額の調整などは厳しいと考える。運搬・製造・販売を一手に行えるような体制の整備が必要。

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

(例：日程、調書様式、その他監査に関する要望、改善点等)

なし